



解答と解説は 22 ページにあります。

新聞で
読解力アップ！

ワークシート

読解力は学力の基本です。記事を読んで、問題にチャレンジしましょう。

収穫直後の稲すき込みや搬出奨励



ホクレンが、温室効果ガスの一種で水田から発生するメタンガスの排出削減に取り組んでいる。「ゆめぴりか」の水田で、メタン抑制効果がある収穫直後の稲のすき込みや搬出を奨励したところ、2022年は約7割の生産者が応じ、排出量を前年より1割削減。消費者にも、環境に配慮した生産を行っていることをアピールしている。

メタンは水田の生成菌が有機物を分解することで発生。収穫後の稲わらをそのまま残すと、土壌の乾燥が遅れ、生

成菌が増えやすくなる。ホクレンからの委託で研究する北海道地域農業研究所（札幌）によると、翌春まで稲わらを残すの比べ、収穫後にすぐ土にすき込むと発生量を35%、稲わらを搬出すると76%削減できる。

農林水産省によると、19年度の国内の農林水産分野の温室効果ガス排出量は約4747万トン。このうちメタンが全体の46%と二酸化炭素よりも多い。メタンは二酸化炭素の約25倍の温室効果があるとい

メタンガス1割削減を知らせる「ゆめぴりか」の広告

水田からメタンガス削減

ホクレン ゆめぴりかで昨年1割減

う。農水省は21年に「みどりの食料システム戦略」を策定し、生産の際の温室効果ガス削減を推進。これを受けホクレンも、稲作での排出抑制に取り組むことにした。

22年は、道内作付面積の28%を占めるゆめぴりかの生産者5136戸に、数値目標を設定した上で、秋のすき込みや搬出を呼び掛けた。その結果、これらの取り組みの実施率は69%で、同研究所の試算ではメタン発生量を前年より1割減らすことができた。

ホクレンは、22年は「ふっくらんこ」の生産でも数値目標を設けない形で協力を求めており、今後は「ななつぼし」などほかの品種にも広げていく。また、今月からスーパーなどのコメ売り場に、ゆめぴりかの生産でメタンガス排出を1割削減したことを伝える広告を掲示。近くホームページにも掲載する。

ホクレン主食課の喜多智宏課長は「環境負荷を減らす取り組みをしていることは消費者へのアピールにもなる。生産者にも引き続き協力を求めている」と話している。

（今井潤）

『北海道新聞』2023年6月17日（土）朝刊（全道版）

- (1) とありますが、ホクレンがメタンガスの削減に取り組むことにしたのはなぜですか。メタンガスの性質にもふれて、簡単に説明しなさい。

- (2) について、収穫直後の稲わらを土にすき込んだり、搬出したりすることによって、メタンガスの排出を抑制することができるのはなぜですか。簡単に説明しなさい。
